

小松地域未来塾(中学校)【西条市】

～小松を担う子供達の未来のために～

◆活動の目的・理念

- 学習意欲や自己肯定感の向上を目指す。
- 故郷への愛着心の高揚を図る。
- 学習習慣の定着や学力の定着を図る。

活動場所	小松中学校	対象児童・生徒	中学1年生～3年生	対象学校区名	小松中学校
開催日数・曜日・時間等	平日(授業日)	0	日	毎週水曜日	: ~ :
	土・日・休業日等	3	日	夏季休業中の月～金	9 : 00 ~ 17 : 00
児童・生徒の平均参加人数	22	人/日	学習支援員	2	人/日 教員OB、塾講師、大学生
教育活動サポーターのべ人数	0	人		ボランティアのべ人数	135 人 婦人会、PTA、高校生、おやじの会、史談会、社会福祉協議会、地域の方
活動内容	宿題や予習・復習の学習支援、学習習慣の育成、学習相談への対応			参加者募集	中学校を通じてチラシを配布し、希望者を登録

取組の概要

<主な取組内容>

- 宿題にじっくり取り組む。
中学校の1学期の復習(英語・数学・国語)を中心に取り組む。解りづらいところを講師に納得いくまで教えてもらう。
- 学校や家庭との連携
学校を通じて保護者への協力依頼文の配布・回収。
参加申込書の配布・回収を行う。
- 地域や家庭への広報
公民館だよりに小松地域未来塾の生徒募集記事及び開催状況を掲載。小松中学校だより「とうげ」に開催記事を掲載。



(小松魂で頑張るぞ!)

児童・生徒の感想

- ・試行錯誤しながら、みんなと協力しあってプログラミングができて楽しかった。
- ・知らなかったことを知ることができたし、考えることが楽しいことに気づいた。

<特色ある取組>

『自分で考えて動く学が未来塾』

- 学力を身に付けるだけでなく、自己肯定感を高め、粘り強くやり続けることが自分の未来を変えるということに気づいてもらうことを狙いとしている。
勉強が解らない駄目な自分
⇒学習支援、励まし承認
⇒頑張れる自分を実感、達成感を味わえる。
⇒やれば自分はできるんだ!という自己肯定感が高まる。
⇒自分は一人ではない!応援してくれる人がいるという仲間意識
⇒粘り強くやり続けることが自分の未来を変えるという気づき
- 4日間のプログラムの中に、地域未来塾をはじめ、写真家松本紀夫氏のアラスカフォトライブ、市内の5高校による出前講座、防災マップづくり、村上美智代氏による「片付けたくなるお話」、またコロナ禍での「ちょびっと19+」の松山大学甲斐准教授・愛媛大学地域連携コーディネーター前田教授の共同代表等による「シトラスリボン作り」を行いました。



シトラスリボン運動とは、『ただいま、おかえりって言い合えるまちに』差別や偏見をなくす活動を広めることです。

事業を実施して

【成果】

- 意欲的に学習した生徒は、理解が深まり、学習の成果があがった。
- 西条高等学校の出前講座では、「数学」と「社会」の学習サポートが行われた。
- 普段学べない、多様な体験ができ、中学生にとっては、学習が集中してできる場所であり、高校生にとっても、指導力を身に付けられる体験の場となる。

【課題】

- 学校行事等に組み込まないと、人数が集まりにくい。部活の遠征等でスケジュール等合わない場合がある。
- 今後の継続可能な未来塾として、仕組みづくりの変更の検討するためにも、保護者、生徒からのニーズの聴き取りを行う必要がある。